



### 裏御光 (朝日新聞社提供)

裏御光という現象はそう珍しいものではない。だが、このように美事に撮られた写真は珍しい。これは朝日新聞社屋上から日没時に東方を望んで写したものである。季節は昭和30年の春のある日としかわからない。

御光は元来、仏の背後から放射状に放たれた光のことをいうが、気象観測法を見ると、「日没時に太陽またはその対称点を中心として、光線が放射状にあらわれる現象」とある。稲田の御光、山の御光、海の御光などは別の現象である。

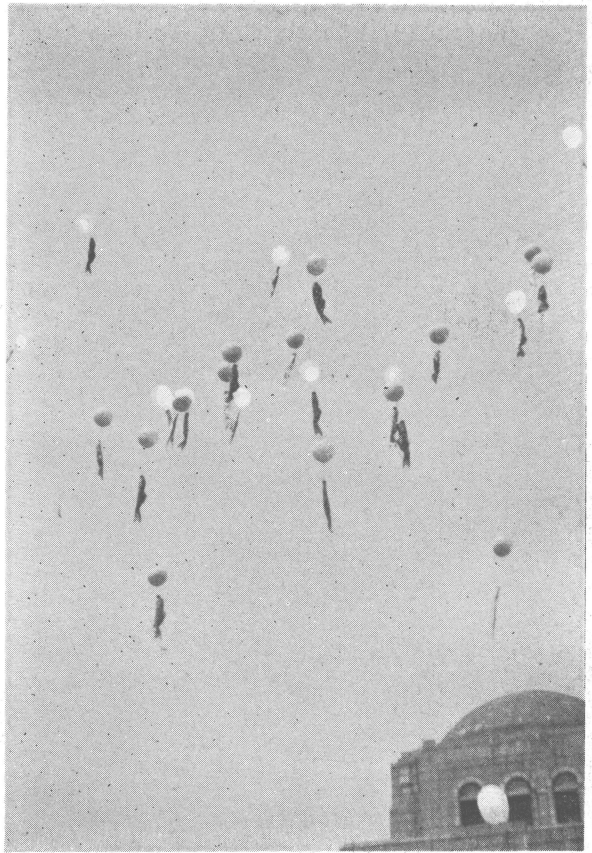
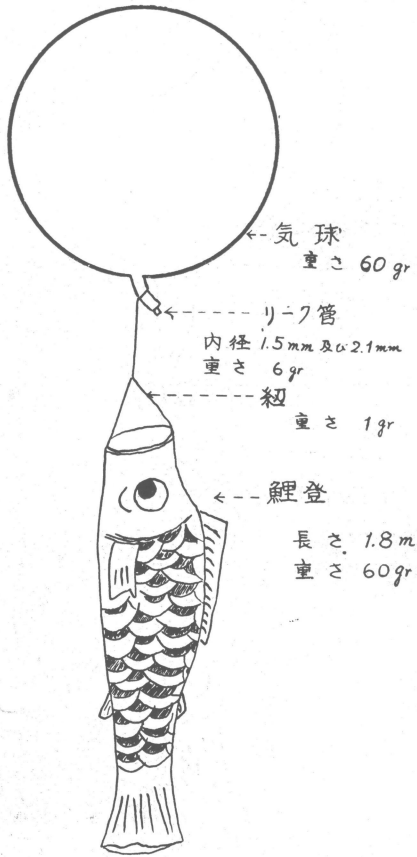
裏御光は、日没時、西の空から出発した数本の光束が平行線となって東の空まで延びているのが、透視的に見るために、あたかも太陽とは反対側東方から光が出ているように見えるのである。

英語 crepuscular rays, (antirepuscular, antisolar rays), フランス語 Rayons crepusculaires, スペイン語 Rayos crepusculares に相当する。crepuscule はラテン語の crepusculum で twilight の意。crepuscular はその形容詞で「朝夕にあらわれる薄明に似たような光輝の」 という意味もある。

crepuscular rays には、低い雲の縁辺や間隙から上方又は下方に放射している光も含んでいる。

中央気象台測候課 山口 協

(禁無断転載)



飛揚直後の鯉登り (中野原夫氏撮影)



飛揚準備中の鯉登り (河野寿夫氏撮影)